

R6 コミュニティスクール調査 まとめ

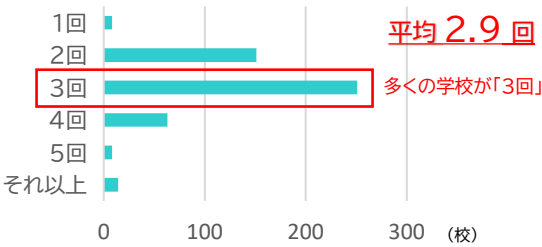
長野県教育委員会事務局生涯学習課

本調査は、地域と共にある学校づくりのさらなる推進に向け、各校におけるコミュニティスクールの取組についておたずねしたものです。

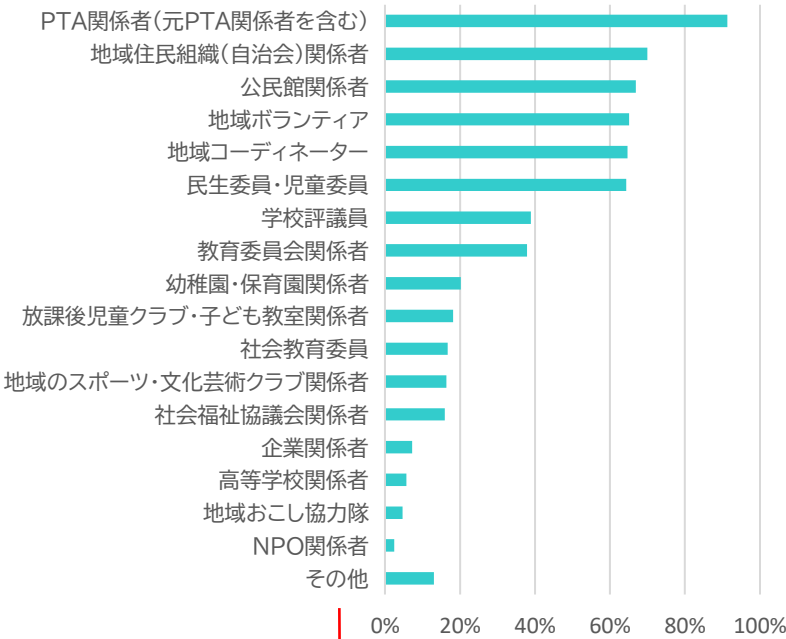
- ・調査期間 令和 6 年 7 月～ 8 月
- ・調査対象 公立小・中・義務教育学校 524校
- ・回答数 496校 ※1（回答率94.6%）

学校運営委員会・学校運営協議会の組織や編成について

開催回数 ※2

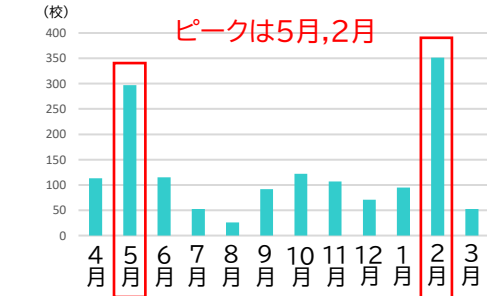


委員の属性 (複数回答)

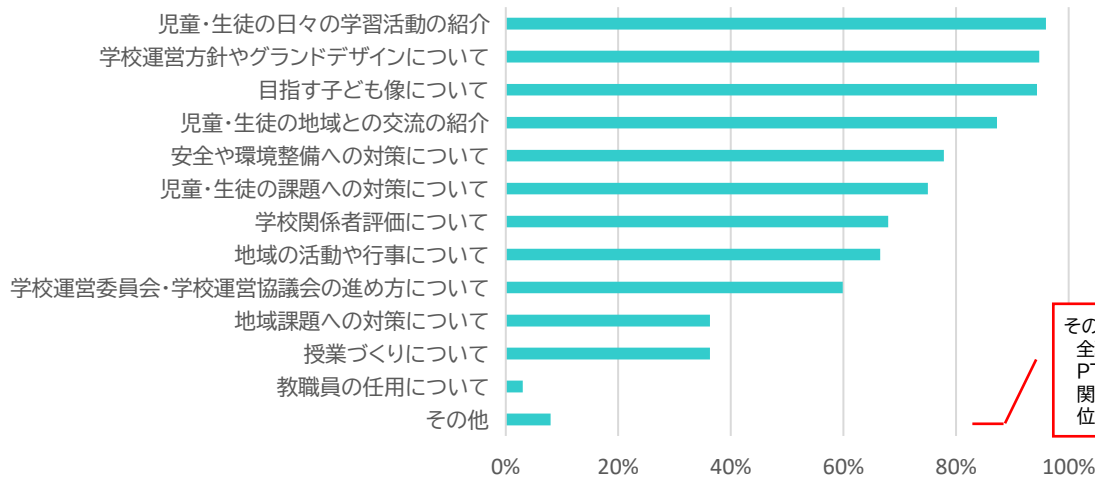


その他として、
先生方、まちづくり協議会、交番、有識者、
公募、児童・生徒(臨時参加) 等、
学校や地域にあわせた工夫がうかがえました

開催月 (複数回答)



扱われる内容 (複数回答)

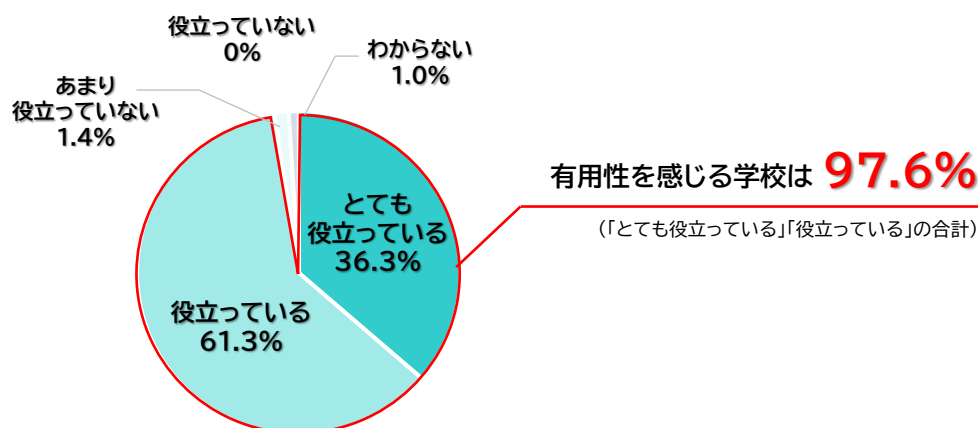


その他として、
全職員とのグループ討議、講演会、
PTAのあり方について 等、
関係者が互いに考え合う場として
位置づける工夫がうかがえました

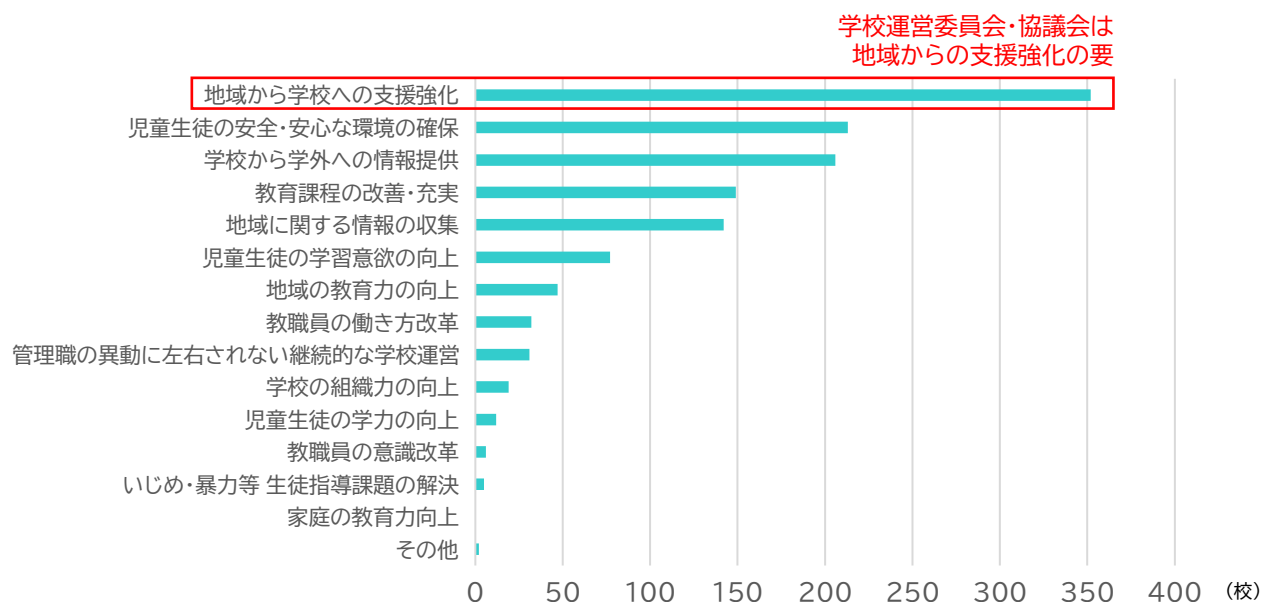
※1 小中学校合同による回答を含む
※2 地域と学校が合同で行う会合はあるが「委員会」と据えていない、また、既定の回数に加え臨時で行う場合があるとの回答あり

学校運営委員会・学校運営協議会の有用性について

Q.学校運営委員会・学校運営協議会は、学校運営に役立っていますか？



とても役に立っている・役に立っていると回答した理由（上位3つまで選択）



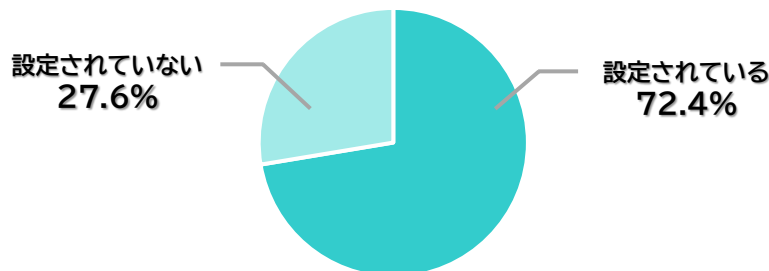
役に立っていない・わからないと回答した理由（抜粋）

- ・学校からの一方的な説明で終わってしまい、議論にならないことが多い
- ・コロナ禍の影響もあり、やや形式的な会議になっている
- ・地域の方に学校の事情を理解していただくことが難しく、一体感に欠ける。
- ・コーディネートする立場の人材が不在（不明確）であり、実際のところ十分に機能しているとは言えない
- ・委員が地域のあて職となっており毎年変わるため、学校の成果と課題が引き継がれていかない
あて職ではなく、一人の方が数年委員を務めるなど、学校運営委員会のシステムそのものを見直す必要がある
- ・一部の地域の方には（学校運営委員としての活動が）自治会の仕事の一部として捉えられ、学校と地域が協働して子どもを育てるという意識をもちにくい
- ・自校の運営委員会に加えて、ほぼ同じメンバーの中学校区の委員会もあり、自校のC Sの存在意義を積極的に見出すことが難しい
- ・学校の中のどの事業や活動がコミュニティスクールにあたるのか、判断がつかない

他

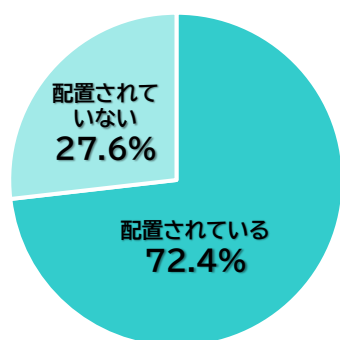
地域と学校による目標の設定について

Q.地域と学校の対話により、納得と合意の上で
「目指す子ども像」が設定されていますか？ ※3

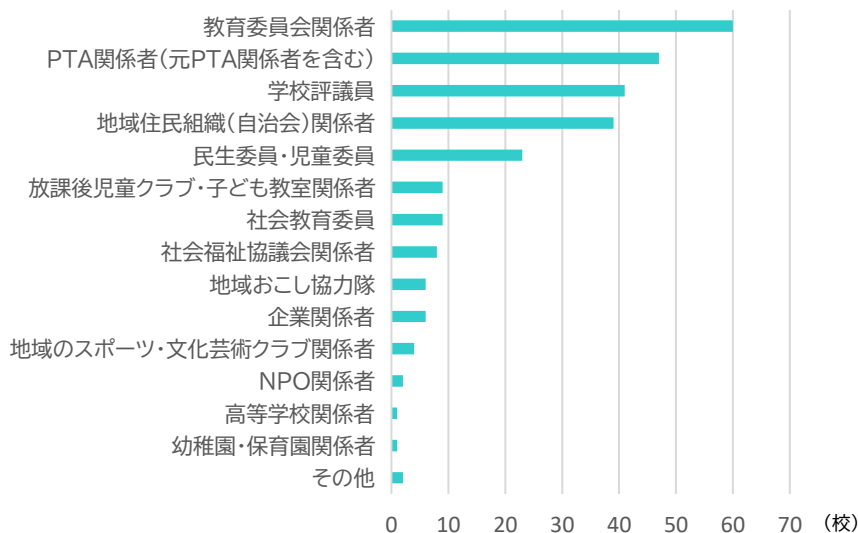


地域コーディネーター※4の配置について

配置の有無

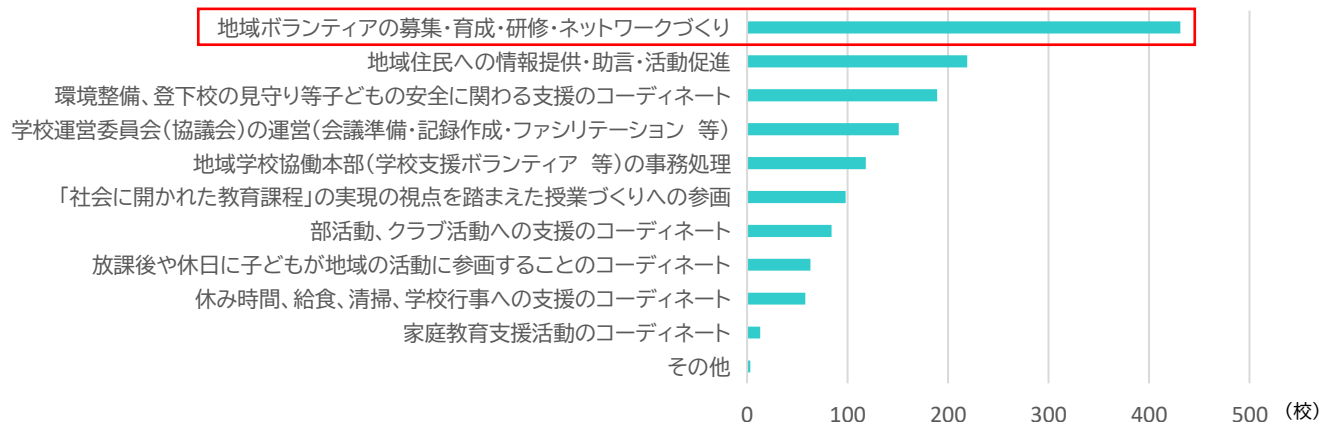


地域コーディネーターの属性 (複数回答)



地域コーディネーターに期待すること (上位3つまで選択)

人材の確保を望む声が多数

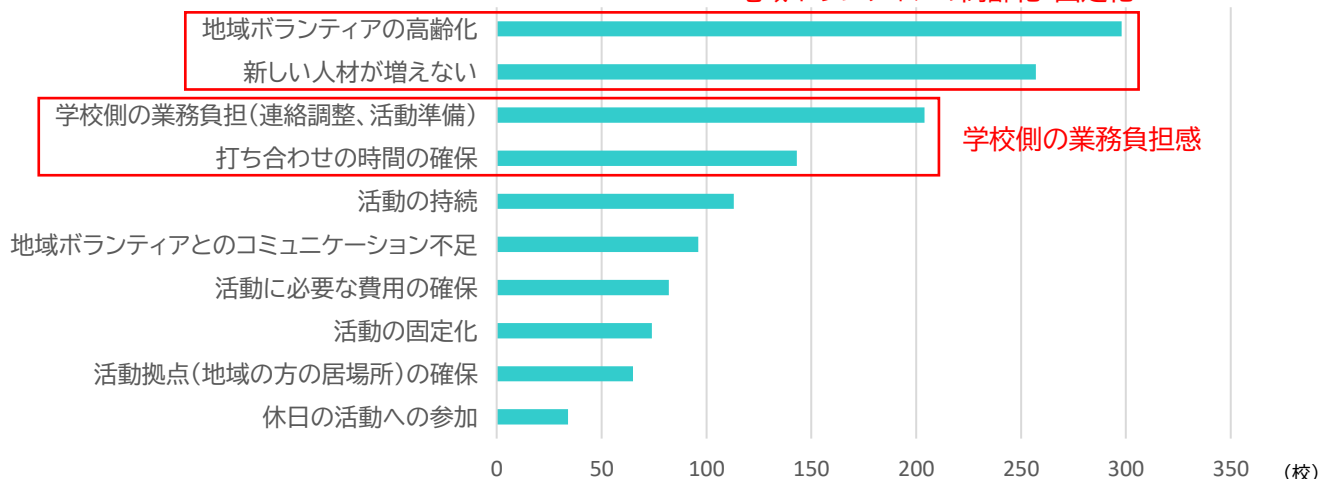


※3 委員同士で十分な対話が行われているとは言えない場合(例：学校が提案し、対話なく多数決で決定 等)は、「設定されていない」を選択

※4 学校職員以外。都度派遣される場合や、エリアでの配置の場合を含む

地域学校協働活動の課題（上位3つまで選択）

地域ボランティアの高齢化・固定化



コミュニティスクールを進める上で工夫していること（抜粋）

○学校運営

- ・グランドデザイン、年間計画へ位置づけている
- ・コミュニティスクールを地域と学校に馴染みのある名称で位置づけている

○組織・体制

- ・各種会合（育成会、地域教育協議会等）との連動 ・小中による情報共有
- ・主要メンバーによる打ち合わせや部会を定期的に行い、課題の共有や活動の見通しをもつ
- ・地域コーディネーターを市町村費で配置
- ・地域コーディネーターを複数配置。地域コーディネーターが分野別に窓口業務を担当

○業務負担軽減

- ・委員会・協議会を勤務時間内に開催したり、他の会合と同日に設定したりしている
- ・ボランティア活動や会合の連絡・調整、おたよりの配信をアプリやメールで行う
- ・ボランティアの予定や名簿をフォームやエクセルシートで集約
- ・SSSに事務局に関わってもらっている
- ・職員研修に地域の方も参加してもらう（避難訓練・非違行為防止研修・救急救命講習 等）
- ・保護者への安心メールを学校運営委員など地域の方にも配信

○学校運営協議会・学校運営委員会の工夫

- ・（あて職ではなく）地域との連携役を担っていただける方に委員を依頼
- ・地域と学校が「共に考える」委員会の推進
- ・活動のふり返りや報告、要望といった内容を見直し、グループ討議等により今後の取組を話し合う
- ・短時間でも子どもの様子を参観していただいてから会合を始める
- ・教育委員会が実施するCS研修会等を参考に、委員会を運営している

○地域コーディネーターとの連携

- ・定期的に来校してもらい、学校支援や授業の人材探し等の相談にのってもらっている
- ・地域コーディネーターに各種業務を担っていただくよう働きかけている（学校運営委員会の進行 等）
- ・学校の地域連携担当者が地域コーディネーターと一緒に各種研修へ参加し、その内容を委員会で共有する

○子どもたちの参画

- ・学校運営委員会・協議会へ子どもたちが参加している
- ・地域との交流を子どもが企画 ・子どもたちがコミュニティルーム（地域の方の居場所）を整備
- ・子どもたちと地域の方が一緒に学ぶ場の創出

○地域と学校の日常的な関わり

- ・日頃から地域の方とのコミュニケーションを大切にし、関係づくりに努めている
- ・校内に地域の方の居場所や作品展示スペースをつくり、子どもたちや先生方が日常的に関わっている
- ・地域公開参観日等を定期的の実施し、子どもの姿に即した話し合いや協働ができるようにしている
- ・委員やボランティアの方の写真を校内に掲示し、子どもたちに紹介
- ・学校職員が、地域開催の会議等に努めて参加し、地域の方の考えを聞く
- ・放課後子ども教室や地域未来塾の折に、こまめに情報交換や打ち合わせを行う

○人材確保

- ・新規ボランティアの募集通知を域内全戸へ配布
- ・祖父母を対象に、参観日とボランティア活動を同時開催したところ、新規ボランティアが増えた

○心構え

- ・できることをできる範囲で無理なく
- ・学校の課題は地域の課題、地域の課題は学校の課題であることを関係者が共有 Win-Winな関係に